

社会 第4学年 1 ごみのしりと活用 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「集められたごみは、誰の仕事でどう処理されるだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：自治体の分別案内と収集後の処理経路を読み、再資源化・焼却・埋立てを分けて図にする。施設の仕事と家庭の分別がどこで関わるかを説明する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：燃やせば全てなくなるとする場合、焼却灰などの行き先を資料で確かめる。地域ごとの分別ルールを混同しない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。生活を支える協力を考える活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：ごみを直接開けたり触れたりせず、施設では見学規程に従う。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：自治体の分別案内と収集後の処理経路を読み、再資源化・焼却・埋立てを分けて図にする。施設の仕事と家庭の分別がどこで関わるかを説明する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全14時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「集められたごみは、誰の仕事でどう処理されるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「集められたごみは、誰の仕事でどう処理されるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。生活を支える協力を考える活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

